

# PROFILE

## 五十里 彰

岐阜薬科大学薬学部生化学研究室



2013年10月1日付で、岐阜薬科大学薬学部生化学研究室内に就任しました。岐阜薬科大学は、1932年に設置された岐阜薬学専門学校を母体としており、大変歴史のある大学です。2010年に本部と大学院が岐阜大学の隣接地に移動し、岐阜大学との連携を強化して薬学教育・研究に取り組んでいます。

私は富山で生まれ、小学生の頃から富山医科薬科大学（現富山大学）を見て育ちました。1994年に富山医科薬科大学薬学部を卒業後、1999年に同大学院博士課程を修了しました。4年生で薬物生理学研究室に配属されてから6年間、竹口紀晃教授にご指導いただきました。同研究室の酒井秀紀先生（現富山大学教授）とともに、胃酸分泌細胞における塩素イオンチャネルと細胞防御機構に関する研究に取り組み、JJJに掲載された論文が細胞と分子生理/上皮膜研究グループ優秀論文賞に選ばれ、大きな励みと刺激になりました。

博士課程修了後に静岡県立大学薬学部の助手として赴任し、「腎尿細管におけるイオン輸送体の機能異常と病態との関連」という新しい研究テーマに挑みました。2000年には、米国ジョンズホプキンス大学医学部のDonowitz教授のラボに留学の機会をいただき、様々な文化や考え方に触れることにより貴重な体験ができました。2012年に長野で開催された生理学会大会ではポスターアワードを受賞し、研究人生の節目となるような年に、生理学会にお世話になってきたことを実感しています。

現在私は、細胞間の接着部位に分布するクロロゲンというタンパク質の発現と機能の調節機構を調べています。腎尿細管に発現するクロロゲン-16がマグネシウムチャネルとして機能し、家族

性低マグネシウム血症という遺伝性疾患に細胞内局在の異常が関与することを明らかにしました。また、クロロゲン-2の発現異常が肺腺癌に関与することを明らかにしました。これからも新しい病態メカニズムの解明、治療標的の同定、治療薬の開発を目指し、学生とともに苦労と感動を味わいながら、研究に取り組みたいと思います。

これまで移り住んできた富山、静岡、岐阜の3県は、風光明媚な自然に恵まれ世界遺産（白川郷・五箇山の合掌造り、富士山）も望むことができます。このようなすばらしい場所で教育・研究生活を継続できることに大変感謝しております。また、勤務地が変わると、新しい発見や出会いがあり、刺激に満ちあふれています。今後生理学会がますます発展するよう、微力ですが精一杯努力致す所存です。生理学会の皆様には、これからも暖かいご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 略歴

- 1994年 富山医科薬科大学薬学部卒業
- 1996年 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程修了
- 1999年 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
- 1999年 静岡県立大学薬学部産業衛生学講座助手
- 2007年 静岡県立大学薬学部臨床薬品学講座講師
- 2008年 静岡県立大学薬学部生体情報分子解析学分野准教授
- 2013年 岐阜薬科大学薬学部生化学研究室教授